

行雲流水

No. 1 3 3 令和3年12月13日発行

あせらず、ゆっくりじっくり、進もう

校長 寒河江 正人

生徒諸君は、今、若さの真っ只中なので、日々どう感じているのだろう。

中学生の頃、自分の「容姿」「体格」「能力」など、他人と比較して「コンプレックス」を感じる事がしばしばあった。

人生とは、「自分の思いどおりにはいかない」ことの方が多いなあと感じたものだ。

自分では、がんばっているのに（つもりなのに）、**「願ったような結果」**につながらない。なぜなんだろう。

人生には、「山」があれば、「谷」もある。

「上り坂」があれば、「下り坂」もある。

「晴れの日」があれば、「雨の日」「風の日」「雪の日」「嵐の日」もある。

「笑える日」があれば、「怒りたい日」「落ち込む日」「泣きたい日」もある。

「ほめられる日」があれば、「叱られる日」「批判や非難にさらされる日」もある。

なぜなんだろう。

私が好きな古典「^{さいこんたん}葉根譚」の中に、こんな言葉があるので、紹介しよう。

「^{なが}長く^{はね}羽を^{やす}休めて^ふ伏している^{とり}鳥は、^{たか}より高く^と飛び^あ上がることができる。」

「^{ほか}他より^{はや}早く^{ひら}開いた^{はな}花は、^ち散るのもまた^{はや}早い。」

「人生とは、そういうものだから、人生の途中で投げやりになることもないし、成功を求めて、焦って、失敗することもない。」

「**実力**を養いながら、活躍の機会をじっと待つ。」

「**目的**を遂げるために、苦心して**努力**を重ねる。」という経験は、

人生において、大切なことなのだ。

この言葉を知ってから、なかなか「**願ったような結果**」が出ないからといって焦ることはなくなった。そういう「**時間**」を過ごしてこそ、大きく「**飛躍**」することができるのだ。